

春夏秋冬の奥多摩・大岳山 -春-

日程：2016年4月10日（日）

メンバー：4名（深澤裕（L）、A、H、S）

報告：深澤 裕

この企画を初めて出したのは2年前でした。一度目は雨で中止。二度目は大雪で中止。今回、三度目の正直の大岳山行です。薄曇りのハイキング日和です。

9時に奥多摩駅から歩き始めます。多摩川を渡りキャンプ場を左に見ると右手に登山口があります。樹林の中に彫刻の像が立っている不思議な小さな公園です。暫く行くと愛宕神社の石段を登ります。見上げると首が痛くなるような長い石段。流石トップのAさんは数えていました。

188段だそうです。愛宕神社辺りには、もう躑躅が咲いています。この辺りにはイワウチワも咲いていました。尾根から下を眺めると淡いピンクが目に入ります。下界では桜が満開です。春爛漫です。ひたすらの登り道。中学・高校生の30人ほどのグループが元気に追い抜いて行きます。

11時40分。鋸山で休憩。腹が減ったので各自簡単な食事。Hさんの「胡瓜浸け」が旨し。Sさんの「グレープフルーツ」が腹に染みます。Aさんの「赤パプリカのスライス」に手製の柚塩をまぶして頂きます。鋸山から大岳山までは奥多摩を感じさせる快適な道です。馬頭刈尾根の分岐から岩場の登りが最後の30分ほど続きます。途中で海沢（うなさわ）から来る道と出会います。ここは7月の夏コースで歩きます。

12時50分。大岳山頂上。春霞みが強く、富士山のシルエットがかろうじて薄く見えます。Aさんは「長谷川恒男カップ・トレイルラン」に3回も参加されているそうです。そのうち2回は20時間以内で完走しているそうです。大岳山頂からトレイルランのコースを俯瞰します。五日市方面を眺め、神奈川県との境の笹尾根がよく見えます。三頭山を越え、月夜見峠から御前山に目を移すと大岳山までのトレイルランのルートがくっきりと広がります。それにしても75kmを20時間で走る（歩く）Aさんは凄いパワーです。

山頂で「塩葱生姜ラーメン」を作りました。頂上は20人位。3歳のお子さんをしょったお父さんが何ともほほえましい。大岳山からの展望を楽しみ13時10分出発します。下山途中の唯一の水場辺りでカタクリの花が咲いているのを発見。御前山ほどではないですが群生のカタクリもあります。堇の花もかなり咲いています。嬉しい発見です。「天狗の腰掛け」という400年もの美事な巨大杉もあります。



天狗の腰掛杉



長尾茶屋

花を楽しみながら長尾茶屋に14時40分着。ここで休憩をとります。長尾茶屋のマスター川崎さんは嘗て都岳連の個人会員。30年間もPホテルでソムリエとして仕事をされていました。今では「天空のソムリエ」として新聞やマスコミで話題になっています。Aさんとは10年ぶりの再会だそうです。二人の話が弾んでいます。Aさんはホットワインを頂いて気分良さそう。SさんとHさんは珈琲を3杯も呑んでいます。

ここには長谷川恒男さんの碑が建てられています。酒が好きだった彼の碑には「澤ノ井のワンカップ」が添えられていました。彼は43歳でパキスタンの未踏峰ウルタルⅡ峰で雪崩に巻き込まれて亡くなりました。知り合いのMさんは長谷川恒男さんがアコンカグア南壁を登ったときのサポートをした方ですが「腰と膝がガタガタになった」と語っていました。その凄まじい登攀を支えたのが三頭山・御前山・大岳山を連続して歩くトレーニングだったそうです。その結果、ここが「長谷川恒男カップ・トレイルラン」の競技場所になったということです。長尾茶屋はその最終チェックポイントでもあります。毎年11月にレースがありますが優勝者は8時間で走り抜けるそうです。Aさんの他にもシリアスの仲間が何人もこのレースに参加されているようです。凄いです。

16時10分のケーブルで下山。御獄駅を17時13分発のホリデー快速で帰宅。6時間のカタクリや堇など春の花を満喫したトレッキングでした。夏は満開のレンゲショウマを期待したいです。

<コースタイム>

9:00 奥多摩駅～11:40 鋸山(休憩)～12:50 大岳山山頂(昼食)
～14:40 長尾茶屋(休憩)～16:10 御獄ケーブル～17:00 御獄駅